

大学トップアスリートにおける キャリア形成プログラム開発へ向けた 縦断的検討

清水 聖志人 (公財) 日本レスリング協会

タレント発掘・育成コンソーシアム

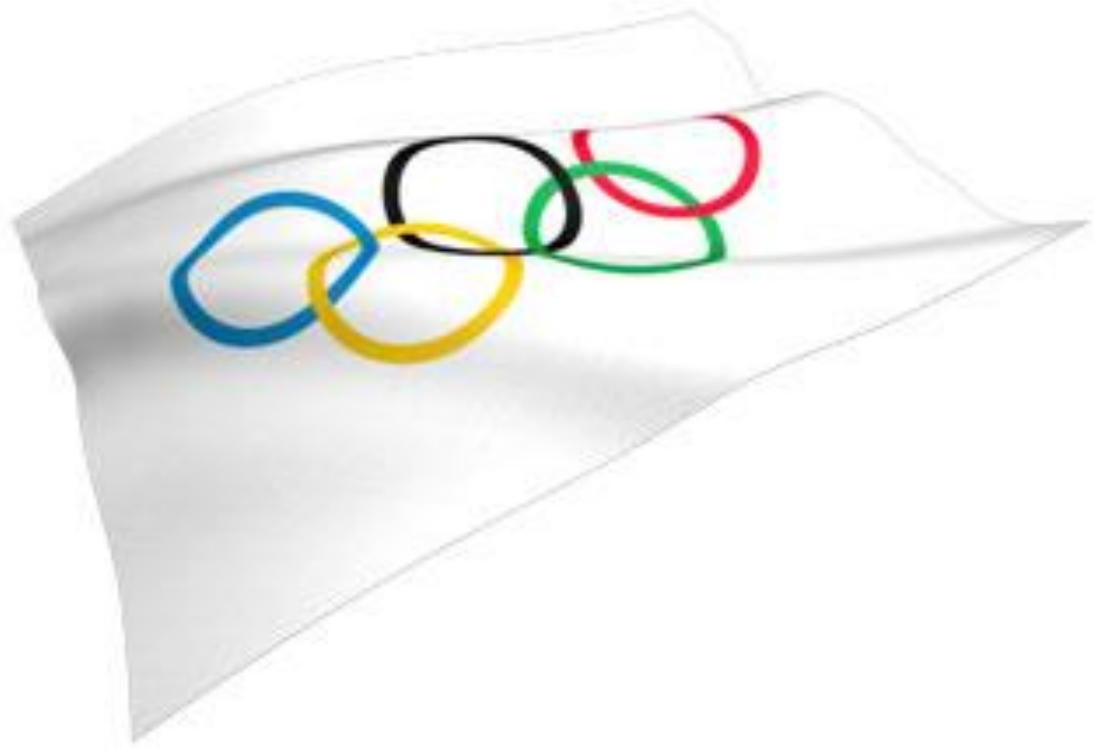
島本 好平 兵庫教育大学 大学院

久木留 毅 専修大学 スポーツ研究所

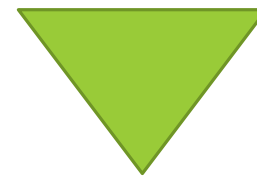
土屋 裕睦 大阪体育大学

研究の背景

2020 東京オリンピック and Beyond...



**エリートスポーツの発掘・
育成・強化がさらに加速**



**競技の高度化により、生活との
バランスが確保がより困難に**

大学トップアスリートとは

第30回オリンピック競技大会（英国/ロンドン）に派遣された日本選手293名のうち、大学在学中及び大卒者の人数は、199名。



エリートアスリート及びその予備群育成

大学トップアスリートの就職状況

平成20年度・21年度に大学を卒業した者の就職率は65.5%

(文部科学省学校基本調査より)

同年に大学を卒業したトップレベルレスリング競技者の就職率は57%(東日本学生レスリング連盟一部に所属している5大学90名を対象)



課題

一般の大学生より就職率が低い

本研究における大学トップアスリートとは、「トップアスリートの育成を担う大学運動部に所属し、オリンピックをはじめとする国際競技舞台を目指すアスリート」と定義する

※清水聖志人, 高橋義雄, 河野一郎. 大学運動部の指導・運営内容差異による就職状況の比較—レスリング競技者を対象として—. スポーツ産業学研究, 第20巻第1号, 119頁~129頁. 2010.

大学トップアスリートの課題



競技リタイア後も
稀有なスキルを社
会に還元すること
は重要な政策課題
ではないか

先行事例

海外の先行事例

- Life Skillsを活用した教育プログラムはすでに導入済
- United States 
 - 「GOAL」プログラム(The Going for the Goal)
 - SUPER(Sports United to Promote Education and Recreation)

Life Skillsとは

- 学習可能な能力である（川畑，1999）
- さまざまな経験を通じて獲得可能である（島本・石井，2009）

運動部活動参加者のライフスキル獲得レベルは非参加者に比べ有意に高いレベル（平井ほか，2012；Murakami et al.，2004；島本・石井，2009；上野，2001；上野・中込，1998）

課題解決に向け

**Life Skillの獲得に着目した
キャリア形成プログラム開発を検討**

研究概要・方法

研究概要

研究全体概要

対象

- 2011年4月に大学に入学した大学トップアスリート

高度レベルの競技活動を通して得られたLife Skillsと、卒業後のキャリアステータスとの関連を抽出することで、キャリア形成プログラム開発の一助とする



縦断研究を実施し、就職とライフスキルの関連を検証

本発表における対象研究

対象

- 元大学トップアスリート

研究概要

- 大学卒業後、4年間にわたるキャリアステータスをモニタリングすることで元大学トップアスリートの就職状況を把握する
- 大学卒業後のキャリアステータスとライフスキルの関連を明らかにする



大学卒業後から3年にわたる縦断調査の報告

調査対象競技

競技種目により、環境やキャリア形成に関する状況が異なる為、単一競技を選定

- ・直近の第30回オリンピック競技大会（英国/ロンドン）でも金メダル1個、銅メダル2個を獲得
- ・オリンピック競技大会で15大会連続メダル獲得
- ・第27回オリンピック競技大会（ギリシャ/アテネ）以降の男子日本代表24名がすべて大卒競技者



国際競技力が極めて高く、大学での強化が国際競技力向上の中核と考えられる**男子レスリング**競技を対象

調査協力者

調査協力者の条件

- 生活や競技面における環境差異を少なくするために条件を設定

- (1) スポーツ推薦制度により大学に入学
- (2) 運動部の寮にて生活
- (3) 週6日, 早朝約1時間, 午後約2時間半の練習
- (4) 東日本レスリング連盟1部所属の大学に在籍
- (5) 東京・神奈川に所在する私立大学



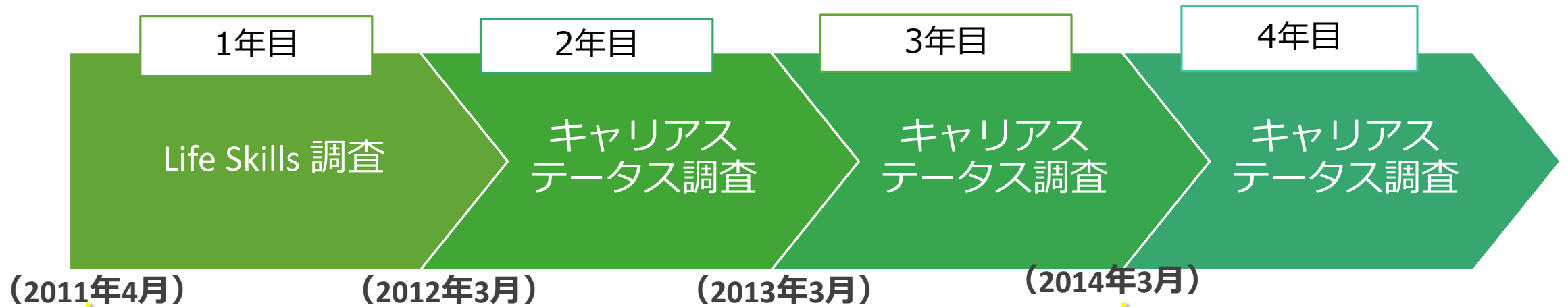
2011年4月に卒業した元大学生男子レスリング競技者
初回調査時点平均年齢 22.0 ± 0.2 歳



4回の調査すべてに不備なく回答した21名を分析対象とした

調査内容①

調査対象者に対して毎年アンケート調査を実施



大学卒業後から3年にわたる計4回の縦断調査結果の報告

調査内容②

大学生アスリート用ライフスキル評価尺度

ストレスマネジメント

目標設定

考える力

感謝する心

コミュニケーション

礼儀・マナー

最善の努力

責任ある行動

謙虚な心

体調管理

各々の側面は 4項目 で評価

※島本好平・東海林祐子・村上貴聡ほか（2013）アスリートに求められるライフスキルの評価—大学生アスリートを対象とした尺度開発—. スポーツ心理学研究, 40（1）：13-30.

調査内容③

キャリアステータス調査

各調査時点のキャリアステータスを
下記の3択にて調査した

1. 正社員
2. 契約社員
3. アルバイト等

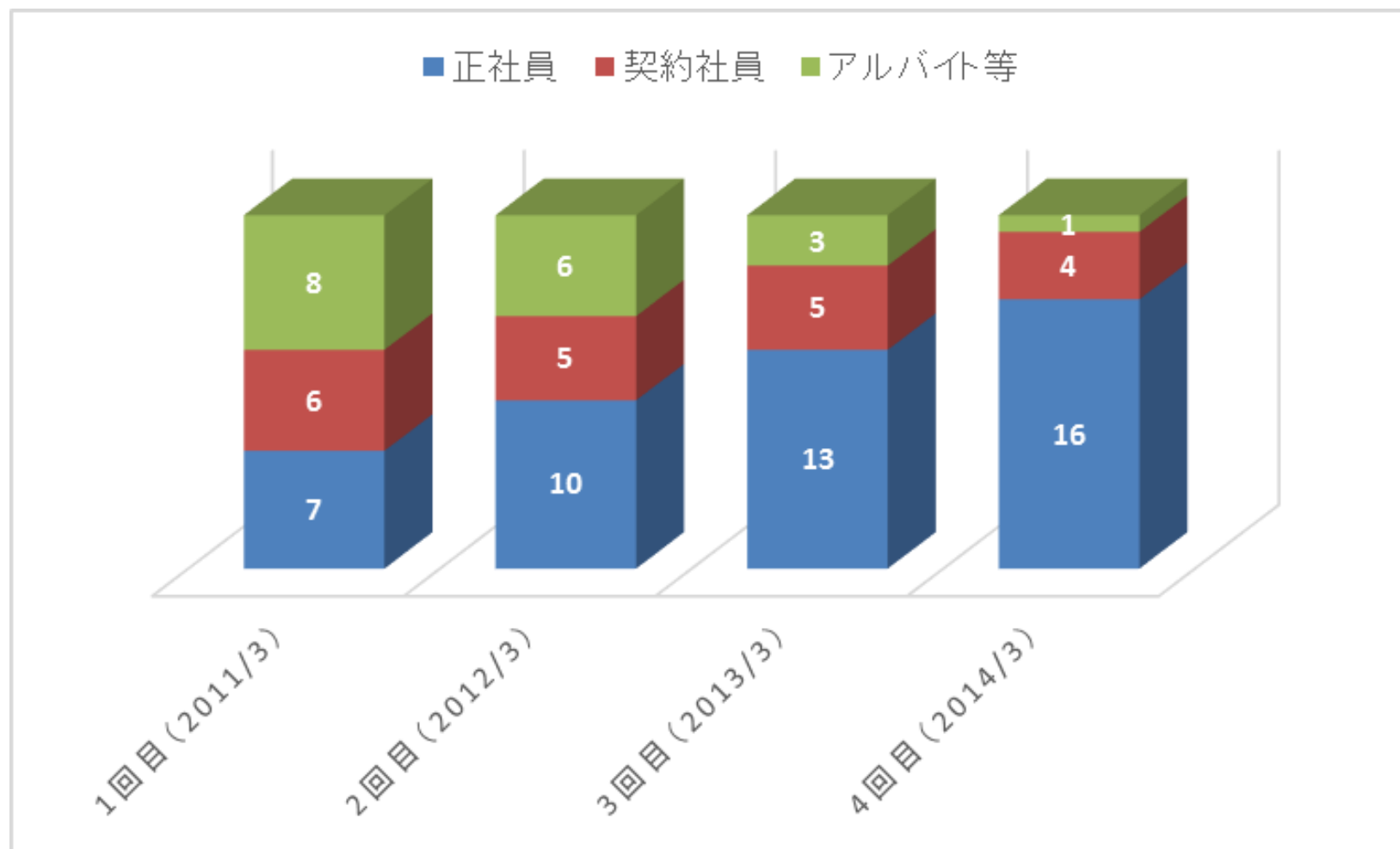
希望就職獲得の調査

初回調査時点で、最終的に就きたい
職業を調査し、希望就職獲得の動向を
モニタリングし、下記の2群に分類した

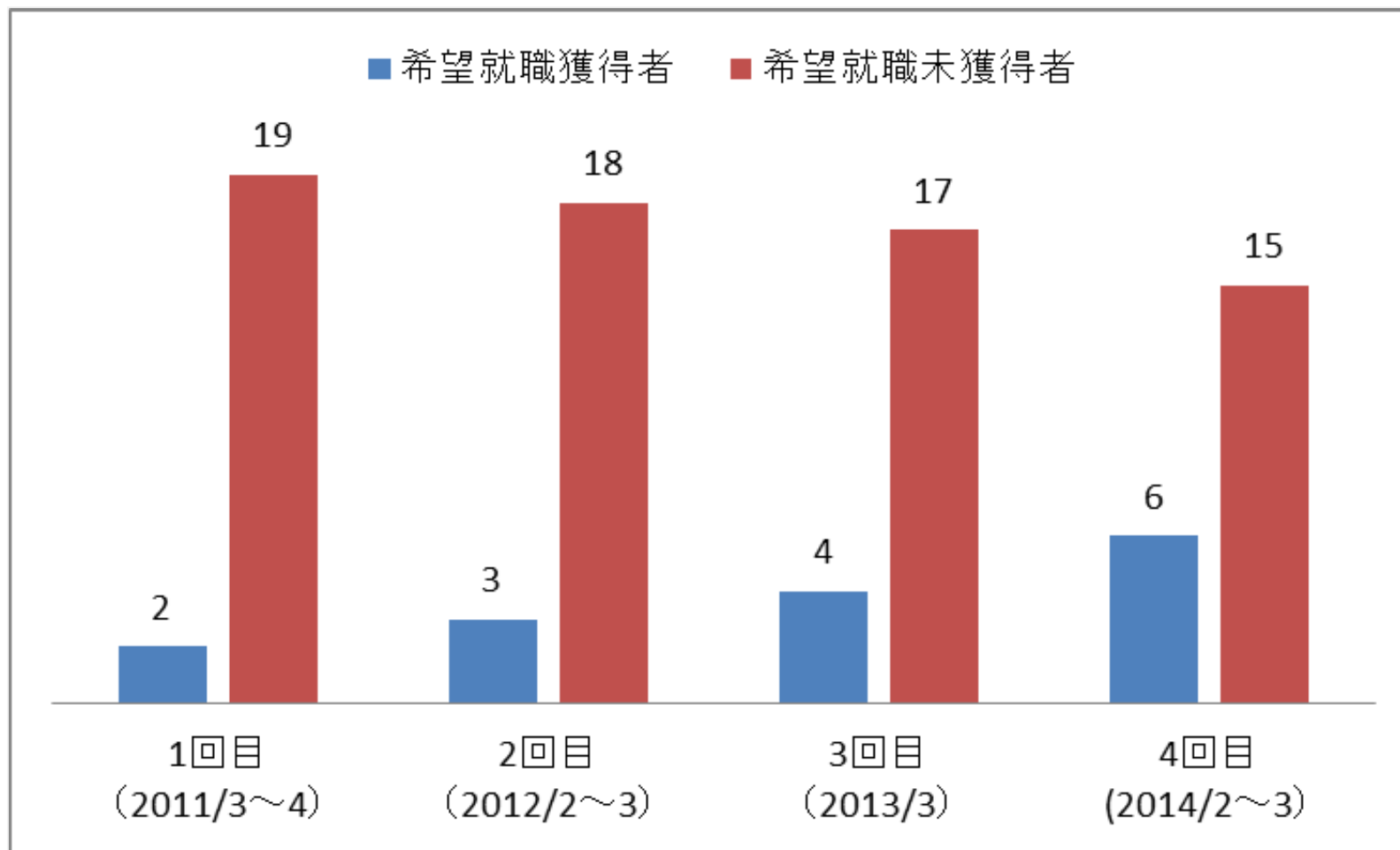
1. 希望就職獲得群
2. 希望就職未獲得群

結果

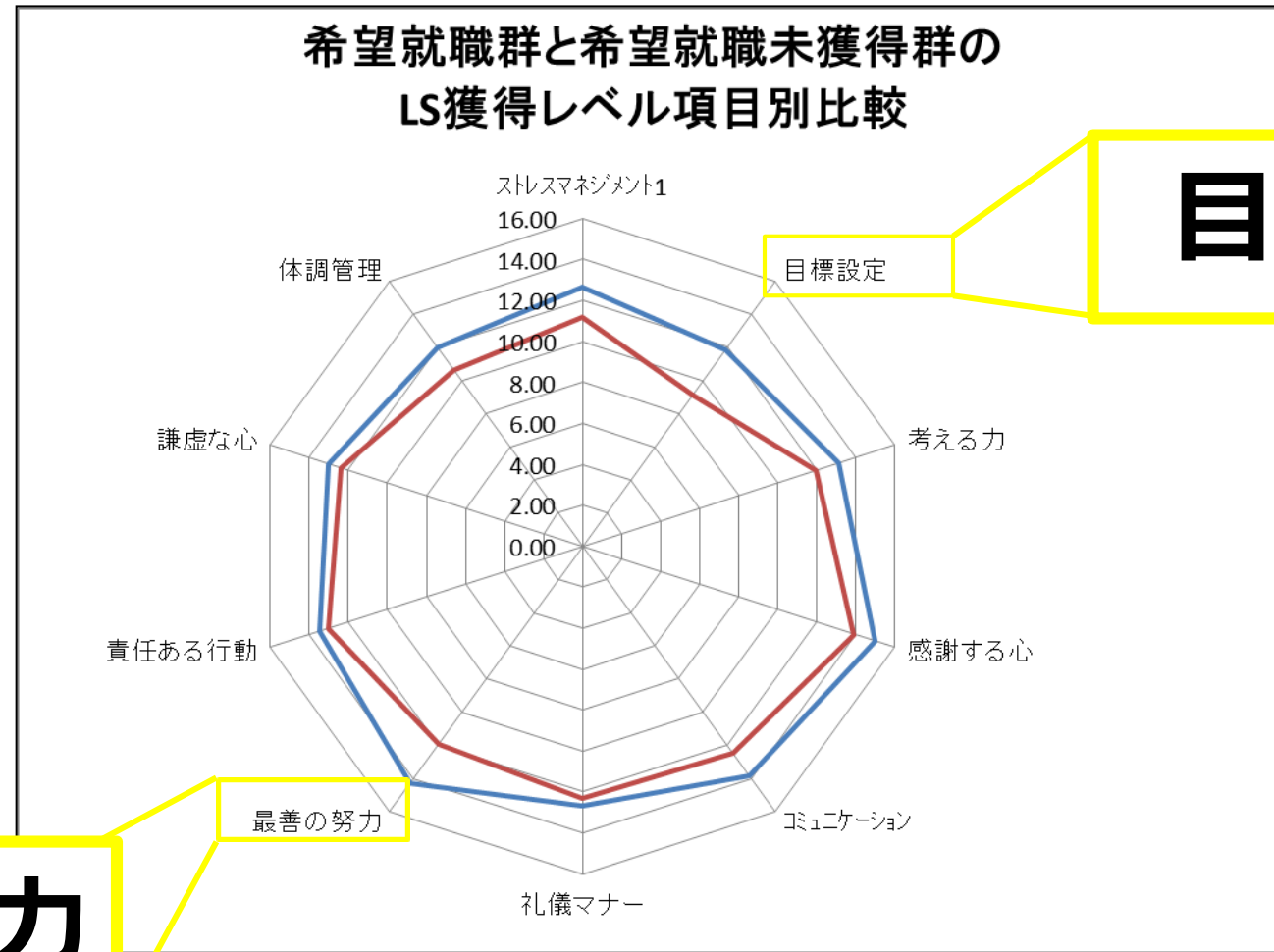
大学卒業後3年間にわたるキャリアステータスの推移



大学卒業後3年間にわたる希望就職獲得状況の推移



希望就職獲得群と未獲得群のLife Skills獲得レベル比較



目標設定

— 希望就職獲得群 n=6

— 希望就職未獲得群 n=15

*LS=Life Skills

最善の努力

「目標設定」と「最善の努力」について

目標設定

各々の項目は4件法（1—4）にて評定

目標を達成するために具体的な計画を立てる
1週間や1カ月、半年単位と期間ごとの目標を立てている

他2項目

最善の努力

目標達成に向けて、一步一步着実に努力し続けることができる
なかなか成果が出ない時でも、自分を信じて努力し続けることができる

他2項目

分析結果のまとめ

- ✓ 自らが最終的に働きたい職業に就いている者は、獲得していないものと比較し「目標設定」と「最善の努力」ともにともにLife Skills獲得レベルが高かった（いずれも $p < .10$ ）
- ✓ その他の側面に関しても、希望就職を獲得している群の方がLife Skills獲得レベルが高い傾向あり。



Life Skills獲得レベルの高低と希望就職獲得には正の関係があると考えられる

キャリア形成プログラム作成に向けて

今回の調査結果とあわせ・・・

USにおいて導入されている

- ・「GOAL」プログラム(The Going for the Goal)
- ・SUPER(Sports United to Promote Education and Recreation)

においても「目標設定」スキルを中心としたプログラム構成。Shimizu et al. (2015) では、「目標設定」スキルの高低が、早期の就職獲得に正の影響を与えていることが明らかにされている。加えて、清水・島本 (2012) では、「目標設定」が競技成績に正の影響を与えることを示唆している。



「目標設定」スキルを中心としたキャリア形成プログラム開発に関する検討を行う

※Sehito Shimizu・Kohei Shimamoto・Hironobu Tsuchiya (2014) The Relationships between Life Skills and Post-graduation Employment for Top College Student Wrestlers in Japan . International Journal of Sport and Health Science

※清水聖志人・島本好平 (2012) 男子レスリング競技者におけるライフスキルと競技成績との関連. 体育経営管理論集, 4 : 47-53.

今後の課題

4年間にわたる縦断調査のデータを詳細に分析

- (1) 大学4年間にわたるLSの経時的変化
- (2) LSの獲得に影響を与えるイベント抽出
- (3) LSの獲得と競技成績、就職獲得との関連

これらの調査結果を基に・・・

目標設定スキルの獲得を促すプログラムの開発とトライアル
を実施

本研究にて得た知見の活用事例

日本レスリング協会の発掘・育成の理念

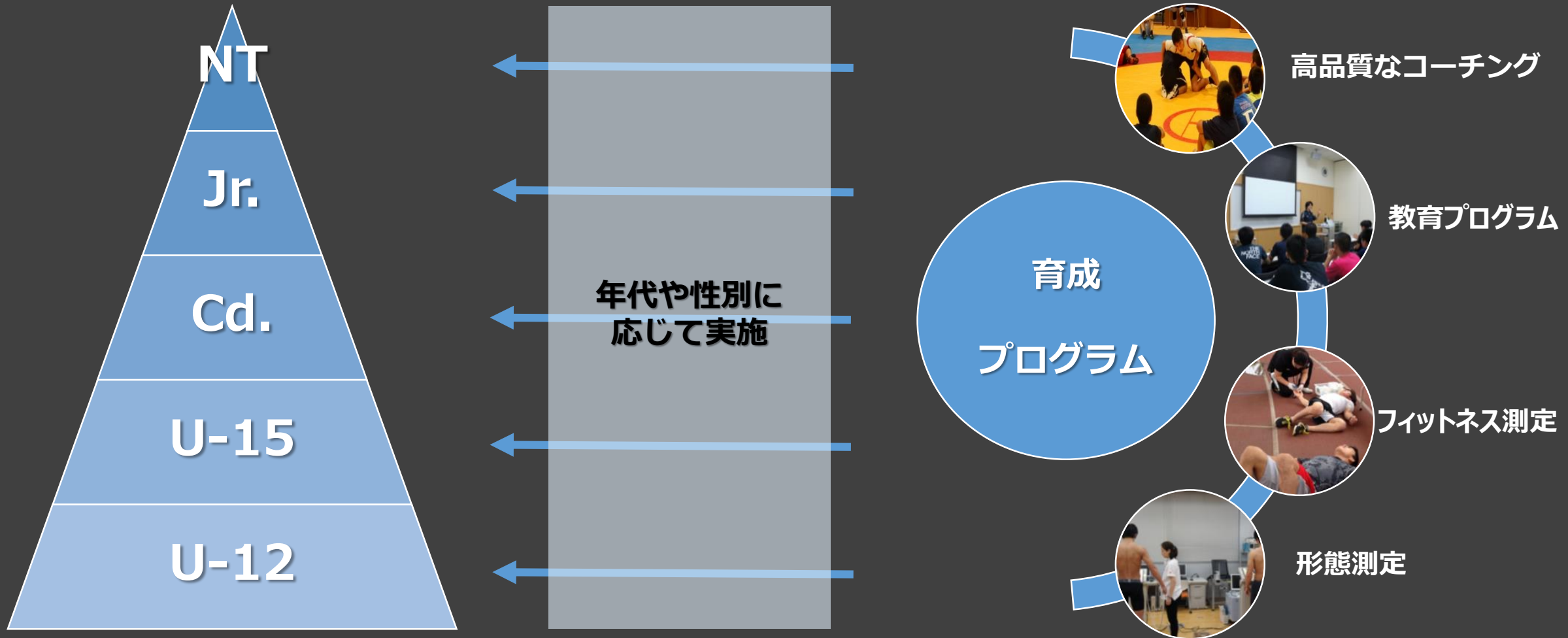
概念 インテリジェントレスラーの育成

オリンピズムの根本原則に則り、本協会では肉体と意志と知性の資質を高めて融合させた、均衡のとれた総体としてのレスラーの育成を目指す。

【インテリジェントレスラーの定義】

世界で勝つ為の厳しいトレーニングの中でも、常に自分で考え、より質の高い行動ができる知性と品格を兼ね備えたレスラー

国内育成プログラム



海外育成プログラム

高度なライバル



海外育成拠点



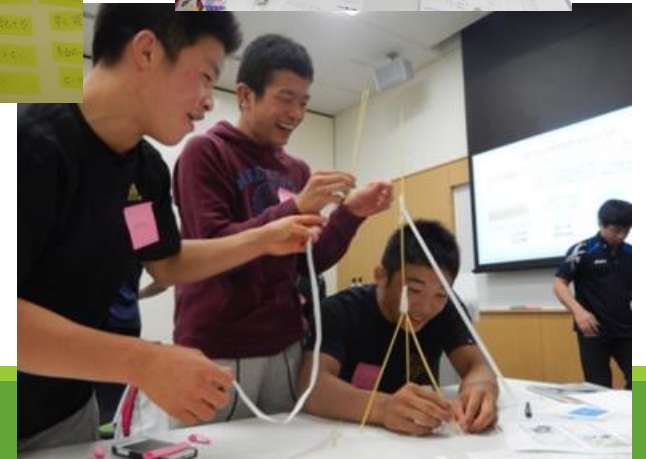
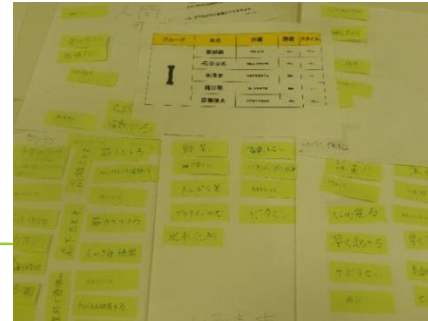
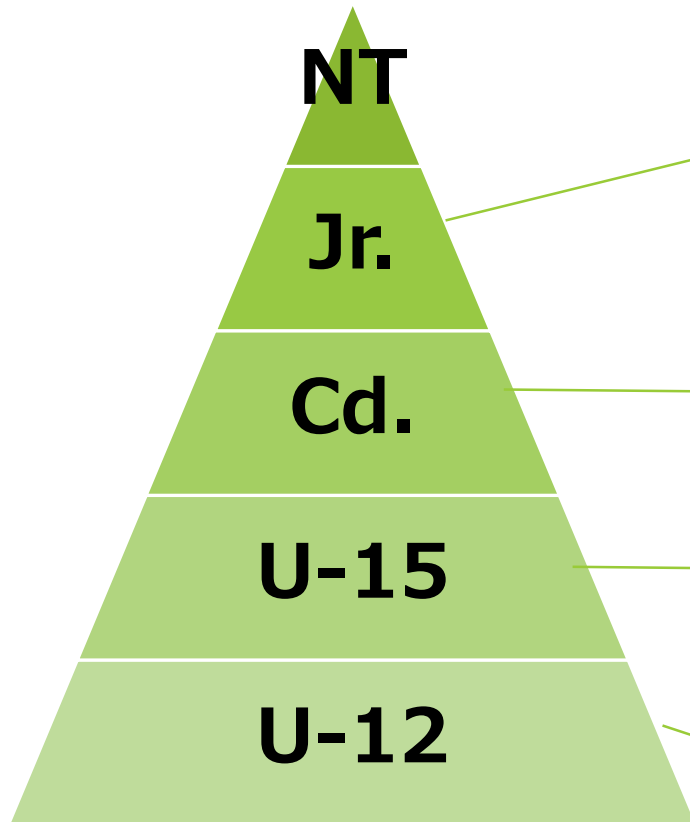
個別カウンセリング



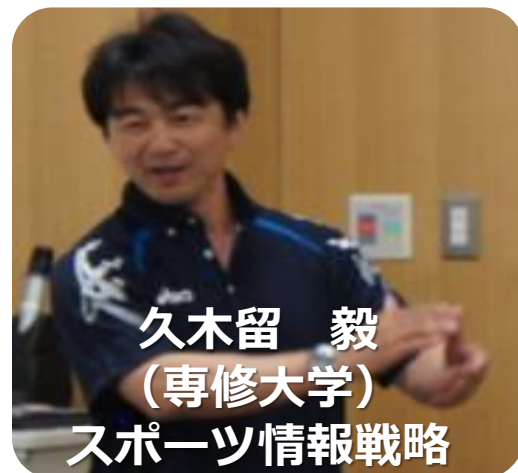
高品質なコーチング



「目標設定」スキルを中心とした教育プログラムを開発・実施



教育プログラム開発メンバー



最後に

自分自身で未来を考え、
行動できるアスリートを育成する

以上、ご清聴ありがとうございました

この研究は、笹川スポーツ財団の「笹川スポーツ研究助成」の助成金を受けて実施しています。

